

# 第41回 観光の実態と志向 結果速報詳細

令和4年7月1日 公益社団法人日本観光振興協会 総合調査研究所



公益社団法人日本観光振興協会では、過去1年間の国民の国内宿泊観光旅行の実態と今後の希望についての調査である「観光の実態と志向」 調査を今年度も実施しました。

今回も前回、前々回に引き続き「**コロナ禍における観光旅行に対する意 識・実態」**について特別に調査しましたので、主な結果についてご紹介い たします。

なお、本調査の報告書は令和4年9月末ごろ発行予定です。

<お問い合わせ先>

公益社団法人 日本観光振興協会 総合調査研究所

〒105-0001 東京都港区虎ノ門 3-1-1 虎の門三丁目ビルディング6階

TEL: 03-6435-8333 E-mail: soken@nihon-kankou.or.jp

# **Summary**



#### 1. 国内宿泊観光旅行参加率の変化

- ・令和3年度の国内宿泊観光旅行への参加率は28.6%。新型コロナウイルス感染症の影響で2年連続で3割を切る結果となっている。
- ・男性の参加率は減少している一方で、女性は増加している。特に、女性の若年層において、前年度からの増加幅が大きい。

#### 2. 国内宿泊観光旅行参加希望率の変化

- ・今後1年間の国内宿泊観光旅行への参加希望率は58.7%で前回よりも増加した。
- ・男女ともに15-19歳において参加希望率が減少、その他の年代では増加している。

#### 3. 旅行に関する割引キャンペーンの利用状況・意向

- ・令和3年度では、6割以上が割引キャンペーンを利用せずに旅行している。
- ・公的機関の実施している割引キャンペーンへの期待が高い。

# **Summary**



#### 4. 旅先での人との関わり方に対する意向

- ・今後1年間くらいの旅行では、前回調査に引き続き、旅行先での人との関わりを必要最低限に抑えたいという人が半数以上である。
- ・全体の約1割が「地元の方との積極的な交流」を希望しており、男女とも若い世代では希望率が比較的高い。

### 5. コロナ禍での旅行先決定で必要な情報および入手ルート

- ・必要な情報Top3は、観光地、宿泊施設、交通機関の混雑状況である。
- ・公式サイトからの情報入手が多く、私的なルートからの情報入手も増加傾向にある。

#### 6. オンライン旅行体験の有無

- ・令和3年度にオンライン旅行体験をした人は2.6%にとどまる。
- ・現実の旅行とは別物として、オンライン旅行体験を楽しんでいる人が増加傾向にあると考えられる。

## 1. 国内宿泊観光旅行参加率の変化



令和3年度(令和3年4月~令和4年3月)の国内宿泊観光旅行への参加率は全体で28.6%と、前年度よりも0.6%の微減となった。令和3年度もコロナ禍前に比べて、参加率は大きく落ち込んだまま変化はなく、新型コロナウイルス感染症の影響による外出自粛が続いていることがうかがえる。

性別にみると、男性では前年度よりも1.9%減少しているのに対し、女性では0.6%増加している。

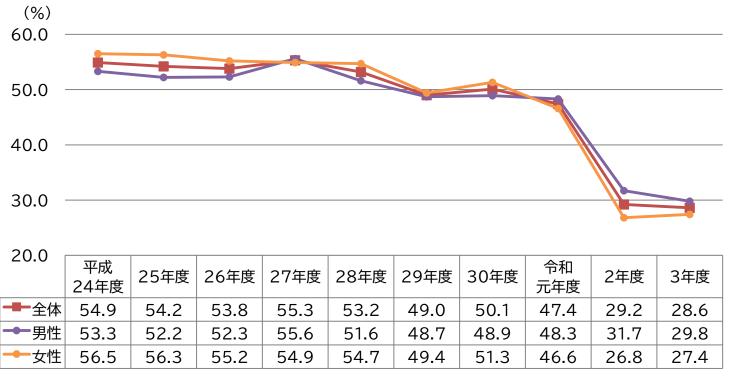


図 1 国内宿泊観光旅行の参加率の推移

## 1. 国内宿泊観光旅行参加率の変化



性・年代別で国内宿泊観光旅行の参加率の推移をみると・・・

【男性】・30代、40代を除くすべての年代で前年度よりも減少

・特に、15-19歳、60代、70歳以上での減少幅が比較的大きい

【女性】・30代、40代、60代を除くすべての年代で前年度よりも増加

•特に、15-19歳での増加幅が大きく、7%以上

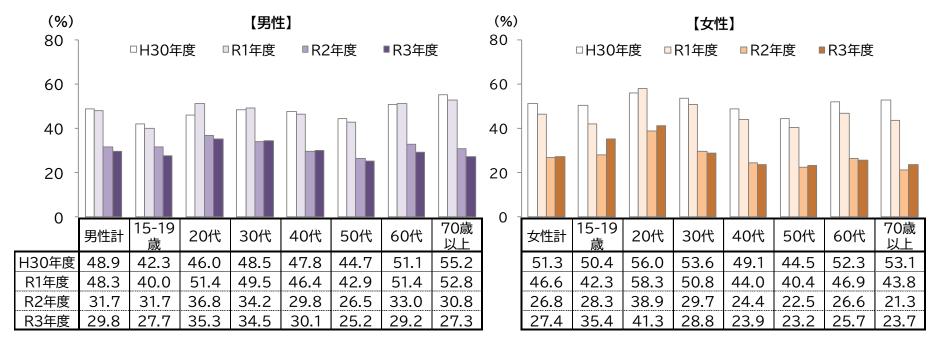


図 2 国内宿泊観光旅行の参加率の推移(性・年代別)

## 2. 国内宿泊観光旅行参加希望率の変化



今後1年間の国内宿泊観光旅行への参加希望率は58.7%で、過去最低値を記録した前回よりも4.4%の増加となった。依然としてコロナ禍前に比べると低い数値ではあるが、以前より減少傾向にあった参加希望率が増加に転じたことは注目すべき点である。

参加希望率については、男性では3.0%、女性では5.7%前回よりも増加している。男女 差は小さくなったものの、女性の方が男性よりも参加希望率が低い結果となっている。

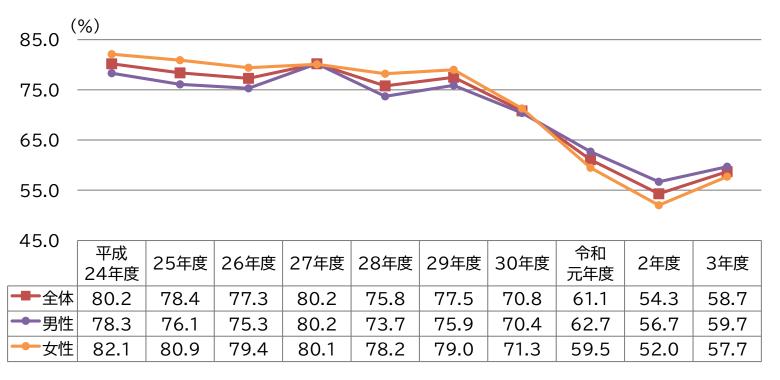


図 3 国内宿泊観光旅行の参加希望率の推移

## 2. 国内宿泊観光旅行参加希望率の変化



性・年代別で国内宿泊観光旅行の参加希望率の推移をみると・・・

【男性】・15-19歳を除くすべての年代で前年度よりも増加

【女性】・15-19歳を除くすべての年代で前年度よりも増加

・特に、40代、50代、70歳以上での増加幅が大きい

○男女とも15-19歳で参加希望率が減少している。

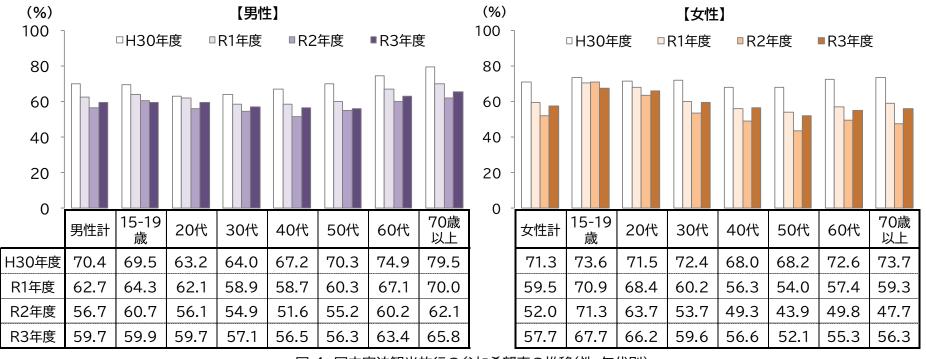


図 4 国内宿泊観光旅行の参加希望率の推移(性・年代別)

## 3-1. 旅行に関する割引キャンペーンの利用状況



宿泊観光旅行に参加した人に対して、旅行に関する割引キャンペーンの利用有無を尋ねたところ、令和3年度では「割引キャンペーンは利用していない」が最も多く、65.4%となった。令和2年度において最も利用の多かった「Go Toトラベルキャンペーン」が行われなかった令和3年度では、割引キャンペーンを利用せずに旅行をした人が令和2年度に比べて大幅に増加している。一方で、「都道府県等各自治体が行っているキャンペーン」が令和2年度より6.1%の増加となった。

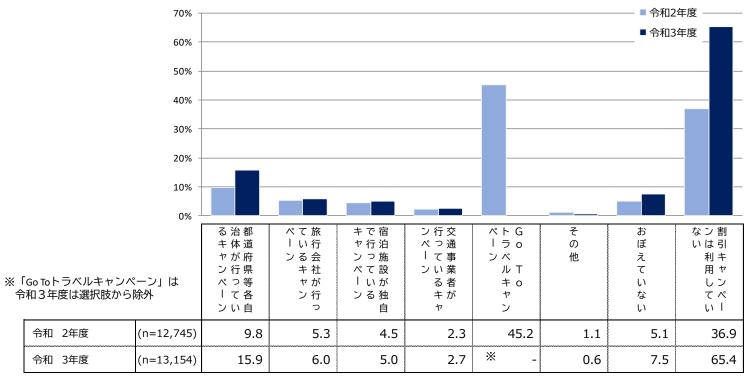


図 5 旅行に関する割引キャンペーンの利用状況(複数回答)

## 3-2. 旅行に関する割引キャンペーンの利用意向



今後、国内宿泊観光旅行をする際に、割引キャンペーンの利用を希望するか尋ねたところ(割引キャンペーンの実施を想定して回答)、今回調査において最も多かったのは、「今後(コロナが収束するまでは)旅行する予定・意向はない」で42.9%であった。コロナ禍での外出自粛傾向が依然として続いているものの、前回と比べてその割合は8.0%減少している。旅行を希望する人においては、前回と同様、公的機関による割引キャンペーンへの期待が高い。

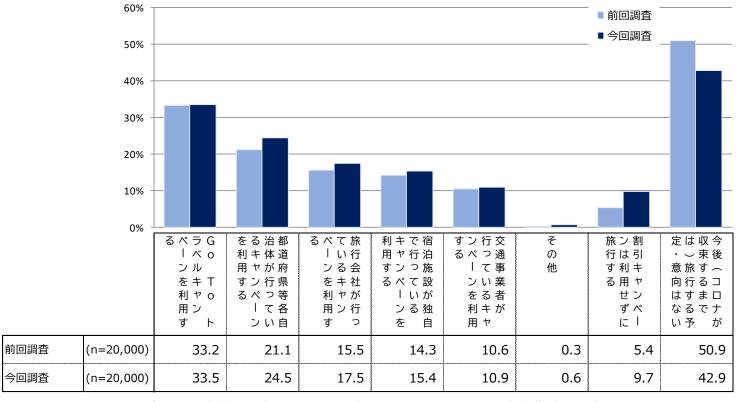


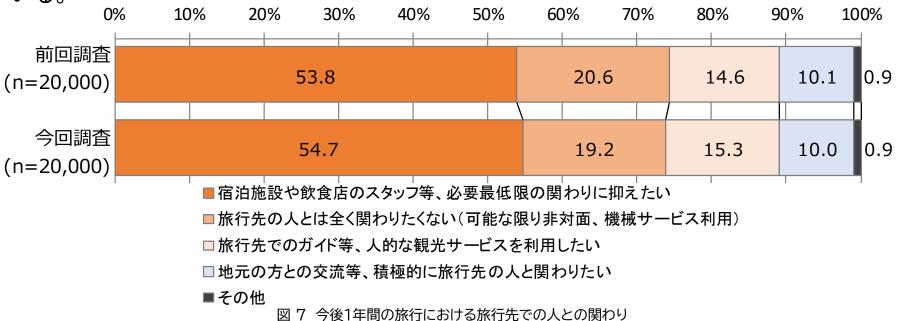
図 6 今後の国内宿泊観光旅行における割引キャンペーンの利用意向(複数回答)

# 4. 旅先での人との関わり方に対する意向



今後1年間くらいの間に旅行に出かけると想定した場合、旅行先ではどの程度人との関わりを求めるか尋ねたところ、半数以上の人が「必要最低限の関わりに抑えたい」と回答し、その割合は前回調査よりも若干増加した。他の項目も若干の増減はあるものの、全体的に大きな経年変化は見られず、旅行先での積極的な人との関わりを希望する割合は1割程度にとどまる。

「必要最低限の関わりに抑えたい」の割合は男性50.9%、女性58.4%で女性の方が高く、 男性では年代が上がるにつれて割合が高くなる傾向にある。また、「積極的に旅行先の 人と関わりたい」については、男女ともに10代では他の年代に比べて高い割合となって いる。



## 5-1. コロナ禍での旅行先決定で必要な情報



コロナ禍での旅行先決定の際に必要な情報として、今回調査で最も多かったのは「観光地の混雑状況」である。これは過去2年と同様の結果であり、3年連続で半数以上の割合となっている。「感染症対策状況」については、観光地、宿泊施設、交通機関のすべてにおいて前回よりも減少している。約2年間コロナ禍を経験し、感染症対策が整っている場所が増えてきたことや、自分自身での感染症対策が身についてきたことなどが要因と考えられる。

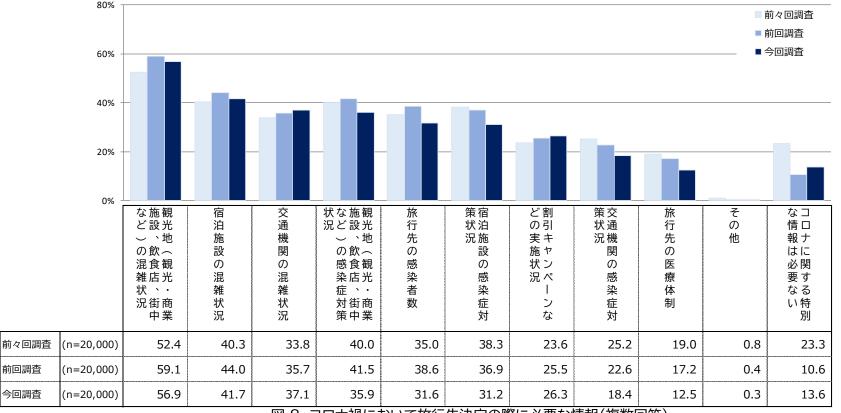


図8 コロナ禍において旅行先決定の際に必要な情報(複数回答)

#### 5-2. コロナ禍での旅行先決定で必要な情報の入手ルート 🐯 🕍

公益社団法人 日本観光振興協会

必要な情報の入手先(希望含む)として最も多かったのは、「旅行先の自治体のホームページ」で43.7%となっている。次に「旅行先の観光協会のホームページ」(39.2%)、「旅行会社のホームページ」(36.7%)と続いている。自治体や観光協会等の公式サイトから情報を入手する・したいという人が多い一方で、「家族・友人の話」や「個人など私的なSNSからの情報」といった私的なルートの割合が年々増加している。

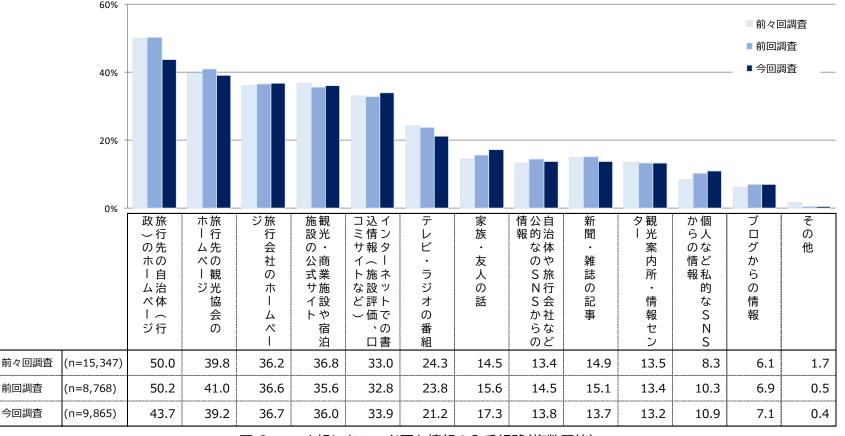


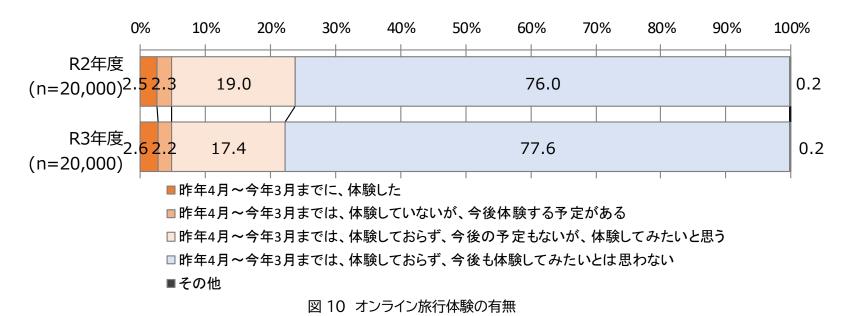
図 9 コロナ禍において必要な情報の入手経路(複数回答)

# 6. オンライン旅行体験の有無



オンライン旅行体験をしたかどうか尋ねたところ、令和3年度において「体験したことがある」と回答したのは、全体で2.6%のみであった。「今後体験する予定がある」も含めると4.8%となり、令和2年度と同じ割合となっている。コロナ禍となり、あらゆるオンラインコンテンツが充実してきたが、オンライン旅行を体験している人はまだ少ない。

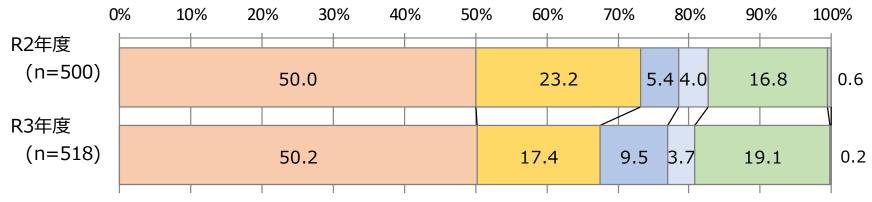
また、「体験してみたいと思う」は微減、「体験してみたいとは思わない」が微増している。実際の観光旅行の参加希望率は前年度よりも増加しており、今後実際の観光旅行の回復が見込まれる中、オンライン旅行がどうなっていくのか引き続き調査していきたい。



# 6. オンライン旅行体験の有無



オンライン旅行体験を通して、「現実でも同じ体験をしてみたい」と感じた人は、令和2年度では7割以上であったが、令和3年度では若干減少し、67.6%となっている。「オンライン上での体験では物足りなかったため、実際に現地に行ってみたい、現実で同じ体験をしてみたい」が減少する一方で、「オンライン上での体験で満足したため、実際に現地に行くことはない、現実で同じ体験をすることはない」が増加している。また、「現実とは別のものとして、今後もオンライン上で体験をしたい」も増加していることから、現実の旅行の代替ではなく、オンライン旅行体験そのものを楽しむ人が増加しているのではないかと推察される。



- ■オンライン上での体験でさらに興味がわいたため、実際に現地にも行ってみたい、現実でも同じ体験をしてみたい
- ■オンライン上での体験では物足りなかったため、実際に現地に行ってみたい、現実で同じ体験をしてみたい
- ■オンライン上での体験で満足したため、実際に現地に行くことはない、現実で同じ体験をすることはない
- □オンライン上での体験が不満だったため、実際に現地に行くことはない、現実で同じ体験をすることはない
- ■現実とは別のものとして、今後もオンライン上で体験をしたい
- ■その他

図 11 オンライン旅行体験の感想

# 第41回 観光の実態と志向 調査概要



- 1. 調査目的: 国民の観光旅行の動向を明らかにし、 諸施策を推進するための基礎資料の作成を目的とする。
- 2. 調査項目:(1)過去1年間(令和3年4月~令和4年3月)の国内宿泊旅行の概要
  - (2)過去1年間の国内宿泊観光旅行
  - (3)今後の観光旅行の志向
  - (4)その他
- 3. 調査設計:(1)対象地域 全国(47都道府県)
  - (2)調査対象 インターネットモニター
  - (3)対象者条件 15歳以上の男女個人
  - (4)設計標本数 20,000
  - (5)標本抽出方法 都道府県別、性年代別人口構成比に準拠して割付 (平成27年度国勢調査結果を使用)
  - (6)調査方法 インターネット調査
  - (7)調査時期 令和4年4月28日~5月6日
- 4. 調査担当:株式会社サーベイリサーチセンター
- 5. 回収結果:有効回収数 20,000

# 第41回 観光の実態と志向 調査概要



#### 【回答者プロフィール】

居住地域 (n=20,000)

性別 (n=20,000)

年代 (n=20,000)

